

東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 第3回水環境WG 議 事 概 要

【開催日時】 平成20年 5月 7日（水） 13：30～14：30

【議 題】 ・東京国際空港再拡張事業に係る環境監視結果<日々の濁り監視>について
・その他

【出席者】 小倉座長、清水委員、古川委員、東京都、千葉県、神奈川県、東京空港整備事務所、東京航空局、財団法人港湾空間高度化環境研究センター

【開催場所】 東京空港整備事務所 分庁舎 5階A会議室

【資 料】 資料-1 環境監視結果<日々の濁り監視>
資料-2 護岸築堤工の使用材料について
資料-3 環境調査の充実について

1. 開会挨拶

2. 座長挨拶

3. 議 事

3-1 東京国際空港再拡張事業に係る環境監視結果<日々の濁り監視>について

資料-1にて、日々の濁り監視結果について説明を行った。

委 員：資料-1についてご意見があればお願いします。

委 員：ページ1-1の2)に「岩ズリ投入が開始された平成20年1月から」とあるが具体的な投入日が分かれば、教えて頂きたい。図1-2の中で、岩ズリ投入以降の影響を判断するために、投入日が知りたい。

事務局：岩ズリ投入開始後、濁りの結果に明確な変化は確認されていない。投入初日は12月27日であり、それ以降は正月明けの1月9日から投入を実施している。図に明記するよう表現の仕方を工夫する。

委 員：“岩ズリ”とは専門用語か。岩石を砕いたものというような認識でよいか。

事務局：石材の掘削段階で発生した余材(石材)とご理解頂きたい。

東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 第3回水環境WG 議事概要

委員：前回のWGでは、D0(飽和度)が150%を超えているのは、赤潮の影響という話であったが、2月、3月にも出ているところがある。どういう状況なのか。

事務局：現地での目視確認においては、赤潮は確認されておらず、クロロフィルの数値についても10~15 μ g/L程度で推移している状況にある。塩分濃度から河川水の影響も考えられる。

委員：管理目標値を3回(1月9日、2月6日、4月10日)超過しているが、工事の影響ではなく、降雨時の多摩川の出水等による影響であるため、特に問題はないと考えられる。

3-2 その他

資料-2にて、護岸築堤工の使用材料について説明を行った。

資料-3にて、環境調査の充実について説明を行った。

委員：工事による濁り監視については、特に問題ないことを説明しましたが、その材料等に関し、資料-2、資料-3についてご意見があればお願いします。

委員：資料2のページ2-3にトレミー管による岩ズリの投入状況の写真が記載されているが、このトレミー管はどれくらいの深さまで伸びているものなのか。

事務局：海底上3m程度まで伸ばしている。トレミー管は、現場の状況に合わせて伸縮可能である。

委員：資料2のページ2-5に築堤材の仕様規格が記載されているが、これは、一般的な仕様規格なのか。それともこの工事に関して仕様規格を決めたものなのか。

事務局：この材料に関する液状化を対象とした模型振動実験結果から物理特性を考慮して設定している。

委員：環境調査の充実について、「毎日の対応」以外の対応については、今回新たに設定するものなのか。調査項目はどのように考えているのか。

東京国際空港再拡張事業に係る環境監視委員会 第3回水環境WG 議 事 概 要

事務局 : 今回、発注者側として、データのクロスチェック強化の意味も含め対応したいということ考えている。項目については、SSだけではなく、一連の水質項目(水温、塩分、DO、濁度、pH、クロロフィル)について実施することを考えている。環境監視計画は従来通り実施し、発注者としてプラス α の調査について実施していきたいと考えている。

委 員 : トレミー船による岩ズリの投入等については、局所的な濁りについての状況把握が必要なのではないかと理解している。そのような局所的な影響は、環境調査の充実に記載の「毎週の対応」において、目視確認による状況把握を同時に実施することで対応できるのではないかと。

事務局 : 可能な限り局所的な目視観測も並行して実施していくこととしたい。

以 上 (終了)